



発行 KOA 森林塾 (事務局)
0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

『量より質の枝打ちを』

第11回森林塾報告 テーマ「枝打ち」
移ろいやすい秋の天気ですが、相変わらず森林塾の当日は好天に恵まれて、まさに秋晴れ。例年ですと、すでに今頃には南アルプスに初冠雪、などというニュースが聞かれるのですが、今年は暑い夏の続きの暖かい秋、キノコの便りも相当遅れ気味です。そんな中、暑くもなく寒くもなく、山仕事日和の一日でした。自作の『ぶり縄』で木に登り、手作業での枝打ち、林業の昔ながらの楽しさを満喫いただけただけでしょう。



氷の壁を登るヤモリ男にとっては枝打ちは朝飯前

一昔前、枝打ちロボットというのが発明され、森林組合などに導入されましたが、今ひとつ普及はしていません。

色々な改良の余地があり、なかでも仕上げの丁寧さの点があると聞きます。保科先生がいつも枝打ちの時に言われる、「中途半端な枝打ちはやらない方がまし、枝打ちは量より質で」という事でしょう。機械がまだまだ人の手に及ばない分野の仕事です。造林、育林の作業の中で、間伐、下刈りなどは必ず行わなければならないませんが、枝打ちは絶対必要というわけではありません。無節材の需要が以前と比べて少ない昨今、省力的に大径材を生産しようと思えば枝打ちを打つことも思えば枝打ちを打つこともできません。



1回しっかり覚えてしまえばもう大丈夫

どういった手順でどのような材を作るのか、年に何日をかけて、どんな山にしたいのか、山林所有者にはやはり明確な目的意識を持って欲しいものです。そしてそんな目的意識をもてるような政策が日本の山には必要でしょう。などといった理屈はさておき、きれいに枝打ちされた林はすっきりして美しい。作業をしている時にはあまり感じないのですが、ちょっと手を



端末を目の形に加工するからアイスブライスです

止めて、少し離れて見ると、満足満足!! という感じ。北山杉には遠く及ばなくとも、時には林の散髪もしてあげたいものです。

今回の内容 第11回 10月6日(土) 枝打ち

8時30分 島崎先生の山小屋集合。今日もお天気がいい。先生方のあいさつの後、本日の課題の一つ、ぶり縄づくりに挑戦。鳩吹公園の芝生に移動し、麻縄のアイ加工を習う。太さ9mm、長さ12mの



見た感じが美しければ正しいアイです

麻縄の両端に輪を作る作業。一方は割り差し、もう一方は巻き差しにする。アイ加工した両端に手木(しゅもく)をつけて、ぶり縄が完成。

10時20分 一人一組になり、四班に分かれる。山小屋横の建石山林に移動し、いよいよぶり縄を使つての木登りに挑戦。安全帯は忘れずに。このとき地下足袋は必需品。それもピン無し地下足袋がいい。ピンは木を痛めます。

11時20分 島崎先生のぶり縄を使つての木登り実演。見ていると、さまざまなコツがある。最初にぶり縄を左に置いて縄を巻いていく。次にあぶみに足をかけるとき両手で手木を持つが、そのとき右手であぶみが広がるように輪を作る。そして、上るときは腕を伸ばし腰を引く。あぶみに足をかけるとき、土踏まざるを木にくっつければ安定する。

11時40分 鳩吹公園の芝生
次は保科先生のワンタツチラダーとワンステップを使って木登り実演。実に軽い身のこなし、鮮やか



おかしなところにロープがある、悩む池田さん



不思議地下足袋の風見さん、ポーズ



長い足を少しもてあました藤野さんのポーズ

長い足を少しもてあました藤野さんのポーズ
炭焼き、そばうち
ドラムカン窯などで
例年窯に炭材を仕込んで火をつけたら、そばうちを始めて、火の番をしつつ、夕方からは忘年会に突入というパターン。

12時30分 小屋前で島崎先生の枝打ちの講義
で昼食
枝を落とすことにより、枝のない部分は同じ太さの木になる。理由は、木には養分を均等に分配する性質があり、枝があればそこに養分が行き、幹の部分の部分が細くなるから。
あと、枝打ちの重要な目的は無節材を作ること。枝打ちを始める目安は木の元がビール瓶(約8cm)



鎖に結ぶと強度は3倍

1時 保科先生の講義
芯持ちの柱を作る場合と大きな材を作るときでは枝打ちが違う。
は高さの8割を枝打ち。は高さの3分の1。仕事は丁寧。ポタン材になれば材の価値が減るから。ポタン材とは枝打ちの所から水が入り、シミが出来た材のことを言う。
重たい枝をおろすには、幹から少し離れたところから枝を切り落とし加重を減らしておくこと。
枝打ち時期は彼岸から彼岸まで。厳寒期はなたの使用は避ける。
保科先生の一日におこなう枝打ちの目安は距離にして200m。つまり、5m上るなら40本。枝打ちの本数ではなく、やった木の付加価値を生むように。



伴野さんはお相撲さんのテッポウになってしまった

1時20分 小屋西側の山林に移動。保科先生実演
1時45分 各班に分かれて枝打ち開始。ぶり縄での木登りで汗びつしより。枝打ちで枝隆(枝座)を残すか残さないかで議論が分かれるところ。
2時45分 作業終了。
3時 山小屋に戻り、刃物の手入れ。
先生方から鋸と、ナタの手入れ方法の説明。
3時50分 ケガ、事故もなく終了。解散。
参加者/上原さん、奥嶋さん、風見さん、片岡さん、菅さん、栗林さん、佐藤(健)さん、佐藤(誠)さん、塩谷さん、島田さん、白壁さん、溜さん、伴野さん、長坂さん、久部さん、藤野さん、逸見さん、松永さん、松ノ元さん、松本さん、桃澤さん、森さん夫妻と麟太郎くん、山浦さん、渡辺さん、池田さん、稲垣さん、塩田さん、則竹さん、芳賀さん、藤本さん、村谷さん、講師/保科先生、島崎先生



基本的に忠実な長坂さんの枝打ち

次回以降の予定
第12回 10月20日(土)
木材市場の見学を予定しています。8時30分 島崎先生の山小屋に集合。

第13回 11月10日(土)
今までの復習
今まで勉強した中でもう一回やってみたいこと、希望を20日までに事務局に。伐木造材かな?それとも測量?もう一度ぶり縄?薪割りもしたい?
Bコース秋の部
11月1日(木)~3日(土)
森林調査(樹木分類、測樹)から間伐、伐出まで一連の作業を実践を通して身につけてもらいます。



太い枝は長坂さんのように2回に分けておとすこと

第14回 12月1日(土)



新しいナタは一度アゴを落としてください

窯出しは翌朝になりますので都合のつく方は朝までお付き合ってください。雑魚寝になります。シユラフあれば持参下さい。

四月の植林が始まった森林塾ももう半年が過ぎ、忘年会の心配をする時季になりました。

ワンポイントレッスン

枝打ちの効果

林業経営の面からは

・無節部分を多くし、材の価値を高める。

・樹幹の位置を高め、樹幹上部の直径成長を促して、完満な材をつくる。などの効果が期待でき、また、森林保護の面からは

・林内の通風をよくし、枝枯れや葉枯れをおこす病虫害の発生および蔓延を防止する。

・林床植生の成長を促進して表土の流亡を防止する。

などの効果が得られる。

枝打ちの方法

枝打ち部分が粗雑で凸凹ができたり、枝に裂け目ができたり、残枝が長く残ると、枝打ち後の巻込みが遅れたり、腐りやボタン材の発生原因になるので、

・残枝長をできるだけ短くすること

・樹皮がはがれないよう、幹に傷を付けないようにすること

・切断面が平滑になるように、よく切れる刃物で枝打ちすること

・枝打ち高

柱材を二玉採材+根曲がり部分とする、七〜八m程度は枝打ちを実施したいところである。また、一度に高くまで枝打ちすると、幹の下部の巻込みが遅れたり、成長を著しく遅らせたりますので、弱度の

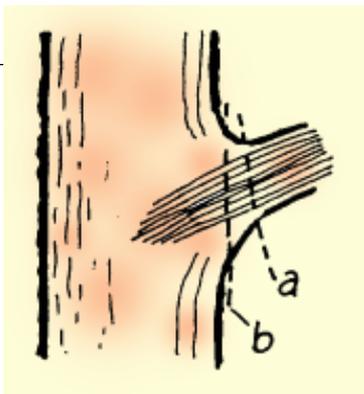


ゆっくり、大きく、砥石全体を使って

枝打ちを計画的に実施することが最良である。

枝打ちの季節

樹液の流動期(四月〜九月)は樹皮が剥げやすく、また、厳冬期は枝や傷口が凍ることがあるので、三月または十月頃が適期である。



a...変色を避け、枝隆を残した枝打ち位置

b...残枝長を極力小さくした枝打ち位置

リレ一通信

「ヤ・バ・イ...」

中村 有希

「ヤ・バ・イ...」

足元の落枝に開いた穴からスーと一匹のオオスズメバチが現れ、私の目の前で真っ直ぐにこちらを向いている。正に警戒体制だ。「黒

いものを襲う、急な動きは良くない、特に左右の動きは良くない、集団で来たら頭を抱えて伏せたほうがいい。×

「...」

頼りにするにはあまりに僅かで曖昧な予備知識が、頭の中で空回りする。固まって身動きがとれない。

次の瞬間、敵は三匹に増え向かってきた。まるで分身の術だった。手で頭を覆い、急いで地面に伏せたが、蜂の攻撃は的確・迅速。私の頭に熱いものが二つ走った。転げるように必死に逃げて立ち止まると、蜂はもう追ってきていなかった。

どうやら私は、蜂たちの大切な城に、スカスカと踏み込んだ無法者だったようだ。しかし、その代償はあまりに大

きかった。

見る見るうちに顔や唇、手足が腫れあがり、舌が痺れはじめた。同時にアナフェラキシシヨックへの不安に襲われ、何度も深呼吸してみた。呼吸が出来ることを確認しながら「大丈夫、私は絶対に大丈夫」と自分に言い聞かせ続けた。診療所へ運ばれた後も、震え、嘔吐、下痢に苦しめられた。



平成十三年九月二十九日、山を恐いと思ったのはこれが初めてだった。蜂の巣に気づかず、近づき過ぎたという小さなドジが、こんな恐怖を招くなんて...。崩れ落ちそうなガレ場歩きも、丸木の一本橋も、逃げていく熊の後ろ姿も、歩道に現れる蛇も、私にとっては日常の中の小さなことになっていった。

した。宗教家になったのも、気が触れたのでもない。私たちが遠い昔に置き去りにしてきてしまった「野生」の厳しさを色々な意味で戒めてくれるのが「山の神」なのだと思った。その存在を忘れ、ほんの少しでも驕りの気持ちで膨らんできたとき、私たちは「山の神」の怒りに触れ、野生の厳しい洗礼を受けることになる。

五十年も六十年も現場の仕事が続けられているベテラン林業職人の方が「山の神」に関する謂れを忠実に守り、小さな慣習を継続されている。私から見たらスーパーマンのような技術・体力・甲斐性の持ち主がである。

しかし、今回の出来事での理由が良く分かった。「スーパーマンなのに小さな謂れを忠実に守っている」のではなく、「小さな謂れを忠実にまもるような謙虚さのあ

る方だからこそスーパーマンになることが出来た」のだと。無事は名人の証で、恐れを知っていることが無事の秘訣なのだと思った。

初日の大遅刻に始まり、私は森林塾で一番の劣等生である。しかし、この森林塾で、先生方を始めインストラクターの方々の林業に取り組み真剣な眼差しや、あらゆる分野から集められたみなさんのバイタリティーに出会うことが出来、色々なことを教えていただいた。このことを何よりも嬉しく思う。

正直、今の私には、自然を相手にし、壮大な時間の中で行われる林業という産業で何が正しくて何が間違っているのかを理解することは難しい。

これまでの歴史の中でも私たち人は、その時々都合で正しいとされる施業方法を変え、施業方法の流行を生み出してきてしまったように思う。山が造られるのに必要な壮大な時間の流れを無視して、結果も見ないまま次々に。「三十年前の正義が現在の悪になったりする。」そんなことの繰り返しだった。

「人と山が関わるための普遍的な方法を知りたい」といつもそう願っている。本当はそんなものはないのかもしれないが、追い求めてみたい。しかし一つだけ今、確信出来る



東京もすつかり秋。金木犀も花をつけ始めて、街が花の香りに満たされています。すごく豊かなことですね。そんな中、相変わらず日比谷公園通いは続いています。個人的には秋の「ブタクサ」の花粉症に見舞われていて、もうそろそろ我慢の限界です。耳鼻科に行かなくては...。七月に載ったリレー通信を見て下さった皆さんがあの文を話題にいろいろ話し掛けてくれてとても嬉しく感じました。あれから三ヶ月位経っ

いることがある。私たちが山とかけ離れてしまっただけではないということ。山に親しみ関わる中で山から学んでいかなければならないということである。今年の森林塾も残り僅かですが、私にとって森林塾は、山に対する情熱を持った山や先生方やみなさんとお会いできる大切な時間です。たくさん学び、いろいろなことを語

て、皆さんとも会う度に仲良くなっていけることが嬉しくなりませんか。今回はそんな皆さんに、紙面を頂いて情報発信しちゃうのだ!

と言ってもそんな大げさなものではなくて、学生の時にいたゼミのホームページを紹介しようと思っただけなんです。ゼミというのは、大学内の教授陣の様々な研究分野の中から自分が学びたいと思う学問を選んでその教授に就いて研究していく演習のこととで、私は「野外教育」を専攻して、ました。で、うちのゼミのホームページがあるんですよ。これが結構面白いんです!

私たちがゼミ生 現役生にとっても卒業生にとってもの拠点である小淵沢の「木の森」の情報をはじめ、心から尊敬する登山家の戸高雅史さんと、奥様で、これまた専攻する大好きなゼミの先輩

りあうことが出来ればと願っています。そして、これからは山に入るときは、心の中に『山の神』への感謝の気持ちや、恐れへの気持ちを持ち続けたいと思います。

九月の彼岸の頃は全国的に冬型の晴天となり、伊那市街では最低気温が2 台まで下がりましたが、その後はまたあまりすっきりとしない秋空です。天気はパツとしなくとも十月ともなれば秋山シーズン最盛期ですから休みとなれば山へ足が向かいます。いざ山へ入ると着実に秋は深



の戸高優美さんが実際にチヨモランマに遠征した持の記録や、ほかに、いろいろなゼミに関連するものや広野外のものなど、リンクを開けばいろいろなページが出てくるし、細かくのぞいてみると林業情報もでてきたり。ちよつとのぞいてみると楽しいと良いと思います。興味のある方はぜひのぞいてみて下さい。

ゼミも森林塾も、そこに居る人が自然好きなことに変わりはなくて、そんな人同士で新しい出逢いが生まれたり、つながりができたりしたら素敵だなと思っています。

というところでリレー通信おまけ編でした!

淑徳大学土井ゼミホームページ
<http://www.nonon.net/>

「はかがいく」という言葉は伊那に来て初めて聞いた言葉です。知っている言葉で言うなら「はかどる」ということでしょうか。これはまだ想像がつかまりましたが伊那の方言には全く意味のわからない言葉もありました。「こしい」や「ずく」。

既に紅葉が終わりにさしかかっているようです。街中では桜の葉が落ち始めたものの、気温がやや高めのためこの頃は秋が足踏みしているように感じていたけれどどうでもないようです。

体育の日の連休、奥秩父の山へ出かけてみました。長野と山梨の県境辺りの山でした。三連休とあって各地から登山者が来ているようでした。駐車場の車は関東方面が大半でしたが、にぎやかな関西弁もたくさん聞こえてきました。松本や長野ナンバーの車をあまり見かけなかったのは、やはりこの時期は中央・北アルプス方面なのでしょうかね?なんて思っていたら、登ってきた女性が「昨日の疲れが出てきてなかなか歩かなくて、長野の人かな。」

伊那の人が使う方言がどの辺りまで共通なのかからないので何とも言えませんが、

「はかがいく」という言葉は伊那に来て初めて聞いた言葉です。知っている言葉で言うなら「はかどる」ということでしょうか。これはまだ想像がつかまりましたが伊那の方言には全く意味のわからない言葉もありました。「こしい」や「ずく」。

他にも聞いたけれど自分知っている言葉とはあまりに違うので忘れてしまったのも

あります。語尾につく「ずら」というのも初めてでしたが、これは三河(愛知県西部)の方で使う「だら」や「ら」と同じように使えそうです。地元の人と話す機会が少ないのでまだきつと知らないおもしろい言葉があるのかも。新しい言葉を知るのを楽しみます。

追伸・先号登場した十センチは裕にある蛾は「クスサン」という名前です。今年には県内で大発生した模様です。「二ツカマン」

おわりに
当てにしていた森林塾ほだ場のシイタケ、ナメコがまったく顔を出さず、これは困ったと産直市場「グリーンファーム」を覗いたらクロカワ以外のキノコの入荷が殆どない状態。これではキノコ汁をあきらめざるを得ず、期待していた方には申し訳ないことをしました。自然相手に安請け合いは厳禁。でも一雨降ってそろそろ期待できそうです。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)
H.P.<http://www.koanet.co.jp>

